

令和4年度 旧八幡浜管内 生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和4年8月1日(月) 14:00~16:00

2 場 所 五十崎自治センター(大ホール)

3 講演内容

- ・ 演 題 「学校復帰を実現させる翼学園」
- ・ 講 師 NPO法人翼学園理事長 大野 まつみ 氏



<写真1 講演の様子>

(1) NPO法人翼学園の取組

ア 翼学園：長期欠席の子どもたちへの専門的なケアと復帰までの指導

(ア) 五段階の心のケア・カウンセリングが基盤

(イ) 学習・スポーツ・集団活動・コミュニケーションスキルをケアの視点で具体的に指導

(ウ) 子どもが在籍する学校との連携・定期的なケア指導報告

※ 年間実施日数209日、年間ケア時間1371.5時間、年間利用延べ人数約5020人

イ カウンセリングルームつばさ：専門性のある個別カウンセリング

(ア) 学園生の定期的なカウンセリング

(イ) 保護者の定期的な個別・集団カウンセリング

(ウ) 青年・成人・一般の方のカウンセリング

※ 年間相談件数 7755件

ウ 就労支援：個性と適性に合わせた援助とトレーニング

(ア) 外部講師によるPC教室の実施(年間36回)

(イ) 就労に向けたトレーニングの実施

(ウ) 就労支援事業所などへの導入・同行(随時)

※ 年間利用延べ人数 約180人

エ 研修学習会開催：36年の実績とナレッジを伝えたい

(ア) 拡大学習会の実施(年1回)

(イ) 講演活動 小中高・大学・教職員研修・民生委員研修など(随時)

オ 広報：長期欠席や学園の活動への理解を拡げる

(ア) 見学説明会(年間6回)

(イ) ニュースレター発行(年間3~4回)

(ウ) 学園ほっとニュース発行(年間約12回)

(エ) SNS更新(年間約50回)

(オ) 翼スペシャルLesson新聞告知(年間約12回)

(カ) マスコミの取材受諾(随時)

(2) 翼学園でのケアと指導

ア 長期欠席の分析と指導法

(ア) 長期欠席に陥っていく五つの時期

(イ) 子どもの現状に合わせた五段階別指導法

→ 五段階理論に基づいたケア・指導で、学校・社会への完全復帰を実現

イ 初回カウンセリングは保護者から

(ア) 成育歴から現在まで、客観的情報と家庭での状態の把握

(イ) 学園に繋がるまでは家庭を通じての間接的ケア

(ウ) 学園入学後も、毎月の保護者カウンセリングと随時の電話・メール相談が必要

→ 家庭と翼学園が同じ方針・方向性でケアすることで、確実な心身回復が実現

ウ 翼学園の毎日

(ア) 教科学習

勉強が分からなくなった学年に遡り、個別指導で丁寧に学習するため基礎学力がしっかりと身に付き、自信も付いてくる。学習の始まりも進み方も一人ひとり違うため、友達との競争も起こらない。みんなそれぞれのペースで毎日の学習を進めていく。

(イ) スポーツ

スポーツは週に1日、グラウンドや体育館、卓球場などで終日楽しく身体を動かしている。リラックスした雰囲気ですぐにスポーツ体験を重ねることで、無理なく体力も付き、苦手だった種目も自然に仲間と楽しめるようになる。

(ウ) 集団活動

集団が苦手な人でも、個々のありのままの状態から、無理のないペースで少しずつ進めていくようにしている。友達との活動が楽しくなると、小さな成功体験が苦しかった思い出やトラウマの克服につながる。それは、学校復帰・社会復帰への自信や希望の芽生えとなると考えている。

(エ) SST (ソーシャルスキルトレーニング)

学習の合間のSSTは翼学園が大切にしている心のケアの時間である。仲間と一緒にボードゲームやトランプなどを楽しみながら、コミュニケーションスキルを身に付けることができる。導入コースの時、友達から受ける気遣いや優しさに触れ、翼学園が好きになる。その優しさの連鎖は30年以上続く伝統となっている。

(オ) カウンセリング

翼学園には二人の心理カウンセラーが常勤している。子どもたちの心や身体の悩みはもちろん、日常生活のささいな迷いごとや進路の相談まで、学園生一人ひとりの気持ちを大切に、心ゆくまで相談にのっている。

(3) 質疑応答

ア Q1 児童生徒が、翼学園やその他のフリースクールから学校へ復帰をするに当たって、学校側で気を付けておかなければいけないことは何でしょうか。

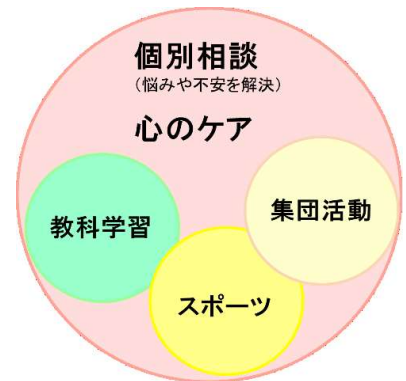
A1 学校復帰ができるということは、その子自身に元気、エネルギーがあるということなので、特に気にすることはない。ただ、特別支援の関係で、その子の必要に応じて配慮すべきことがあれば、共通理解を図っておく必要がある。



<写真2 質疑応答>

イ Q2 翼学園では、まず保護者のカウンセリングを行うということだが、その際、保護者が一番悩まれていることは何でしょうか。

A2 翼学園に来る子どもは、長年学校へ行けていないことが多く、保護者も病院等いろいろな所へ相談に行っている。その際、近所の目というか、周りの良かれと思って言った一言で追い込まれていることが多い。今後、社会全体が長期欠席の子どもや家族に理解を示すことができるようになることが大切だと考える。



<資料1 活動イメージ>

4 参加者の感想

- 翼学園では、子どもたちが学校復帰を目指し、段階的にケアを行っていることが分かりました。子どもたちに無理を強いるのではなく、子どもたちが主体的に行動できるように様々な活動や行事を考えており、素晴らしい取組をしていると感じました。最後に見せていただいた子どもたちの笑顔が増えるよう、私たちも頑張っていきます。
- 学校になかなか登校できない子は何度も見てきました。ですが、声掛けや相談などの対応しかできず、「これで良いのだろうか。」と考えることもありました。教員として、どのように、どの程度関わり、学校復帰を目指すか、難しく感じています。学校にこだわらず、その子が必要なケアやサポートを受けられる場所が必要だと思います。子どもにとって大切なのは、自分を受け入れてサポートしてもらえると安心感なのではないかと思いました。
- 現場で子どもたちと向き合っていると、どうしても変化を求め、早期復帰に向けた動きになってしまいます。ゆっくり時間を掛けることも大切なのだと感じました。ただし、現場だけでは専門性の面など十分ではないため、関係機関との連携が必要だと思います。そして、一人でも多くの困っている子を救っていくことが大切だと感じました。